

変わり者

1. ツマグロオオヨコバイ

ヨコバイはカメムシの仲間で、セミに近い昆虫です。セミを小型にしたような形をしています。名前の通り横にずれる歩き方をするため、すぐ茎の裏側や葉の裏に隠れることになります。その中で一番目立つ、どこにでもいる、見たことはあるが名前を知らないというのが、ツマグロオオヨコバイです。林縁や草原の普通種です。



ツマグロオオヨコバイ



ツマグロオオヨコバイの幼虫

ツマグロオオヨコバイは、翅端が黒くなった大きなヨコバイの意味です。黄緑色で頭部と胸部に黒班があります。人が近づくと隠れる

ので観察しにくい虫ですが、驚くとぴよんと跳ねて飛んで行ってしまいます。黒点の数を数えてみてください。灯火にも飛来します。

夏、透明な感じのとんがり頭で翅のない虫が、成虫と同じ行動をみせればこの幼虫です。蛹(さなぎ)になることなく秋には成虫となり、落ち葉の下などで冬を越します。初夏、孵化(ふか)した幼虫は草木の成長とともに樹液や草の汁を吸って育ち、成虫も吸汁するため作物につくと害虫と呼ばれてしまいます。

セミのように雌雄は音で通信しているのですが、超音波であるため人には聞き取れません。

2. コウヤボウキ (地図中①地点)

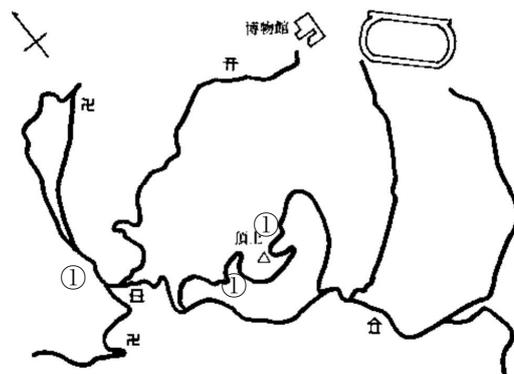
和歌山県の高野山で茎を束ねて箒(ほうき)の材料としたのでこの名があります。草のように見える高さ数十cmばかりの落葉低木で、日本のキク科で唯一の木本です。茎は細いのですが木質化していてかたいので



コウヤボウキの花

箒に使ったのです。根元から株立ちとして伸びたシュートは上部で枝分かかれし、秋には落葉します。翌年はその枝から短枝が伸びるだけで大きくなり

ません。1年目の茎につく葉は幅広い卵型、2年目の枝につく葉は細長くて見分けがつかます。茎は2年目の秋に枯れてしまいます。山地の日当たりのよいところや乾燥した場所によく見られる植物で、打吹山では山頂や遊歩道沿い、長谷の八十八ヶ所に多く見られます。



花は10月に1年目の茎に一輪ずつ咲き、キク科特有の多数の花の集合体である頭状花は花弁のない筒状花のみですが、白い房状、長さ1.5cmほどで、花弁は細長くてよじれています。果実はタンポポなどと同様に先端に冠毛があり、風で飛ばされます。果実が飛んだ後に残った総苞(そうほう)は、冬の間、花のようにも見えます。